伊豆市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

～「認識の共有」と「未来への選択」を目指して～

概要版

◆国の人口動向　～人口の減少と東京圏への過度の集中～

◇我が国の人口は、2008（平成 20）年の 1 億 2,800 万人をピークに減少局面に入りました。それ以降は加速度的に減少スピードが高まっていくと言われており、2060（平成 72）年には、約 8,700 万人まで減少すると推計されています。

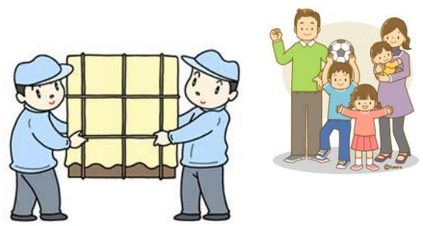
◇人口減少に伴う高齢化の進行により経済規模が縮小し、国民所得が低下する恐れがあるほか、2050（平成 62）年には、現在の居住地域の 6 割以上で人口が半分以下に減少、2 割の地域で無居住化すると推計されています。

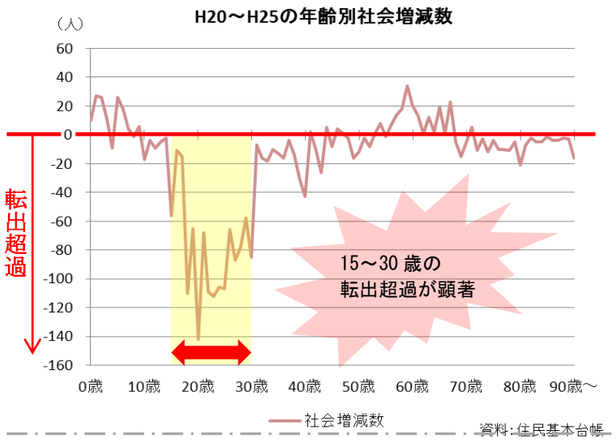
◇また、東京圏には過度に人口が集中しており、地方に比べて出生率が低い東京圏に若い世代が集中することによって、日本全体としての人口減少を招いています。

◆伊豆市の人口動向　～伊豆の国市を中心とした近隣市町への若年層の転出超過が顕著～

若年層の転出超過

H20～H25 の社会増減数（転入数－転出数）を年齢別に表すと、**15～30 歳の若年層の転出超過が顕著**になっており、子育て世代の減少が出生数の低下にもつながっています。



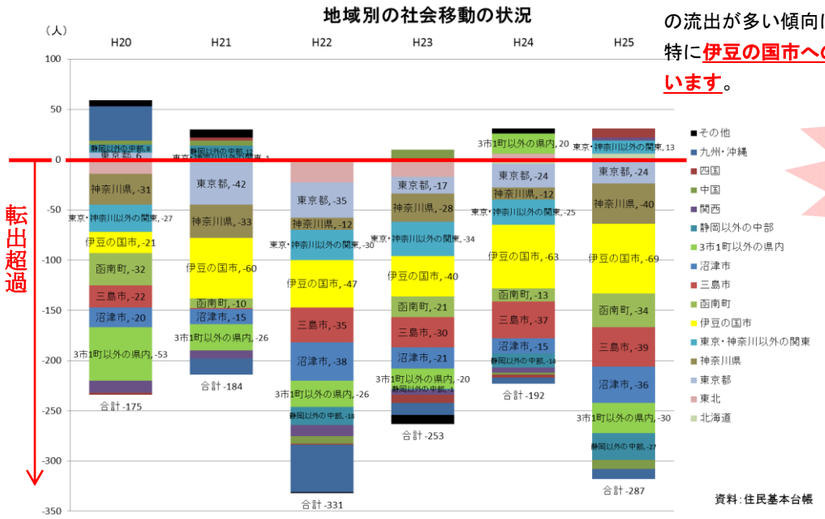


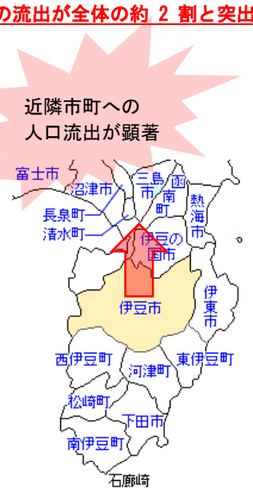
資料：住民基本台帳

近隣市町への人口流出

転出超過の約 6 割が静岡県内となっており、東京都や神奈川県といった関東圏への転出よりも近隣市町への流出が多い傾向にあります。

特に**伊豆の国市への流出が全体の約 2 割と突出しています**。





資料：住民基本台帳

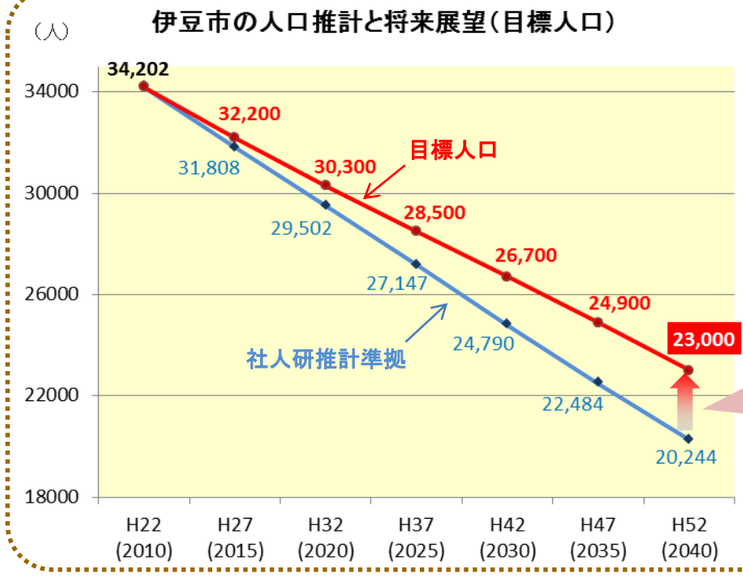
本市の人口減少対策については、出生数の上昇につながる施策（自然減対策）と人口の社会増をもたらす政策（社会減対策）を適切に取り組むことが重要となっています。

伊豆市における人口の展望

期間：2015（平成 27）年度～2040（平成 52）年度

長期的展望を達成するための３つの基本的視点

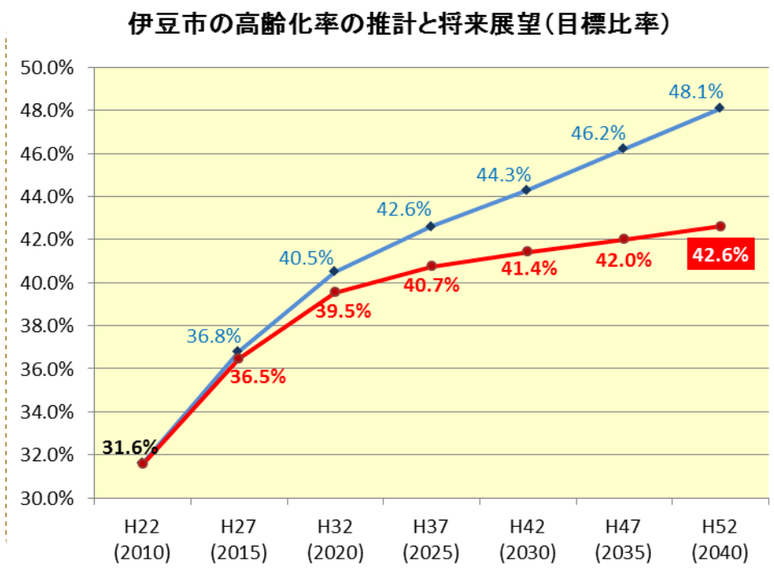
視点１	若年層・壮年層を中心とした定住・定着の促進
視点２	若い世代の就労・結婚・子育てなどの生活環境の充実
視点３	個性豊かで活力に満ちた地域社会の形成



2040(H52)年の目標人口は、「国立社会保障人口問題研究所」が推計した値(20,244 人)との比較で、**約 2,750 人の増加を目標とします**。

合計特殊出生率
静岡県の「人口ビジョン」で示されている 2.07 を平成 32(2020)年に静岡県全体で達成するとした場合の本市の比率である 1.69 を目標

社会移動率
社会移動による減少を社人研推計の 65%程度に抑制することを目標



高齢化率（総人口に占める 65 歳以上人口の割合）は、年々上昇する見通しではあるものの、「国立社会保障人口問題研究所」が推計した値(48.1%)との比較で、**5.5 ポイントの低減を目標とします**。